

約30年ぶりの復活

東京歴史科学研究会創立50周年記念

歴史を学ぶ人々のために —現在をどう生きるか—

東京歴史科学研究会は、1970～80年代に『歴史を学ぶ人々のために』（1～3集）を世に問うてきた。これらはそれぞれの時代状況の中で、歴史を学ぶ意味を問いかけてきた。本会の創立50周年（2017年）にあたり、現在の歴史研究・歴史教育・歴史科学運動を基盤として、新しい『歴史を学ぶ人々のために—現在をどう生きるか—』を刊行する。

2017年3月23日 岩波書店より刊行！
定価2500円（税込み2700円）

【目次】

- ・刊行にあたって 東京歴史科学研究会
- ・現在（いま）『歴史を学ぶ人々のために』を出版するということ 須田努

I “今ここにある危機”に切り込む

- ・三・一一からの歴史学—産業革命期の足尾鉍毒問題から考える— 中嶋久人
- ・新自由主義時代の歴史学 大門正克
- ・歴史学、歴史教育の現在—歴史を学ぶ楽しさを国境を越えて考える— 齋藤一晴
- ・日本軍「慰安婦」問題と歴史学 吉見義明
- ・日本の朝鮮侵略史と朝鮮人の主体性 加藤圭木
- ・構築主義とジェンダー、セクシュアリティ 及川英二郎

II マイノリティ・地域からの視座

- ・中近世移行期研究の視座—暴力・「平和」と「生存」の観点から— 長谷川裕子
- ・近世地域社会研究の可能性—地域の視座から全体史へ— 渡辺尚志
- ・境界・周縁からの視座 檜皮瑞樹
- ・＜境界＞を作り出す力—南イタリアから立てる近代への問い— 小田原琳
- ・日本経済史研究の現状と課題—地域史料との関わりへ— 高柳友彦

III 社会史・文化史を問う

- ・ホモ・モビリタスの問う〈歴史〉—定住を内面化する物語りの死へ向けて— 北條勝貴
- ・思想史という立ち位置—総合史としてのかまえ— 若尾政希
- ・なんじの敵を赦せるか—一九世紀中国の内戦における報復の暴力のゆくえ— 菊池秀明
- ・生・病・死、生存の歴史学 石居人也
- ・あとがき 高田雅士